

助成事業でこんな成果があがっています ～「東日本大震災で被災された方等の支援」に関する事業～

被災地において、地元の複数の団体と連携し託児サービス付き子育てサロンを実施（NPO）

【助成事業の概要】

被災した子育て中の家庭のニーズを調査したうえで、個々の団体による単独活動では対応しきれない支援について、地元の子育て支援団体と連携しながら、未就学児童及び小中学生とその保護者を対象とした定期的な託児サロン、学習支援、遊び広場の実施などのさまざまな活動を行い、延べ1,000名を超える子育て家庭を支援しました。

【助成金の使途】

仮設住宅の居住者や在宅避難者へのニーズ調査、託児サロンでのイベント開催、学習支援などに利用。

【助成事業の成果】

子育て支援という枠組みのもと、事業者単体ではなかなか実施が難しい支援も、複数の団体が連携することによって、多種多様な子育て支援のサービスが提供できており、子どもの健全育成と自立した生活環境の向上に寄与しています。

また、一過性の支援ではなく、支援活動を街づくり活動、地域づくり活動につなげる意識も高く、被災地域のコミュニティの再生にも貢献しているといえます。



被災者のニーズに応じたサロン実施（NPO）

【助成事業の概要】

東日本大震災発災後、県外へ避難している被災者の方々が、避難先の地域にて孤立することのないように、避難先の実施団体がサロンを開設し避難者の方々の繋がりをつくとともに、必要な情報の提供や支援につなげていく活動を実施しました。

【助成金の使途】

サロンの開設・運営、イベントの開催などに利用。

【助成事業の成果】

本事業は、最終的には被災者の方々が企画・運営を行っていくことを前提として開始されており、実施団体はこれまでのノウハウを活かし、サロンの開設から運営、イベントの企画・開催を実施する中で、参加された被災者の方々に運営等の指導が行われました。その結果、助成事業終了後には被災者の方々がサロンの運営を行う団体が設立され、ネットワークを構築しながら、自らのニーズを拾い上げていく運営が行われております。



被災地の主体的な移送支援の仕組みを構築（NPO）

【助成事業の概要】

東日本大震災原発事故によって移動困難となっている南相馬・相馬地域の障害者の移送手段を確保することを目的に、相双地域と県外の実施団体及び福祉関係者の連携により、移送支援のあり方を模索し、被災地の主体的な移送支援を実現しました。

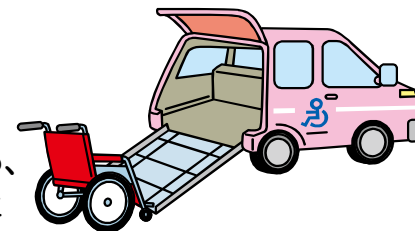
【助成金の使途】

移送支援の実施、移送支援のあり方の検討、及び事業の検証などに利用。

【助成事業の成果】

当初より被災地主体の事業運営ができるようになることが重要であるとの視点を持ち、県外の実施団体が移動支援に関するノウハウの提供や地域の関係団体のつなぎ役を果たしました。

その結果、地域の利用希望者をほぼフォローできる体制を構築し、さらには県外の実施団体の事業を継承する現地団体が設立されたことで、本事業を通じて、障害者が地域で暮らすための課題解決に向けた仕組みが構築されました。



被災地域住民が主体的に自立と復興を目指し、あらたな地域コミュニティを構築（一般社団法人）

【助成事業の概要】

地域コミュニティを再生し、安全・安心な子育て環境をつくることを目的に、手しごとをツールとして地域の子育て中の母親や高齢者など幅広い世代が交流するサロンを開催し、多くの参加者を集めました。

【助成金の使途】

サロンにおけるワークショップの開催費、今後の活動継続につなげるための活動報告書の作成費などに利用。

【助成事業の成果】

サロンで実施されたワークショップには幅広い世代の多くの参加者が集まり、この活動を通じて参加者自身の中で事業の必要性を感じ、事業継続に向けて主体的に活動されました。

また、地域のラジオなどのマスコミを活用することで多くの方に活動を知ってもらうことができおり、その結果、参加者や支援者の拡充とともに他の被災地域との繋がりがうまれています。

さらに手しごとを通じた雇用の創出にまで繋がっていく可能性を持っており、今後、被災地における地域コミュニティの再生とともにあらたな雇用機会の創出にも期待がかかる事業となっています。

